

インタビュー 北野 大氏(明治大学教授)

まきる

第17回 くまもと子育てトーク(同実行委員会、県、熊日主催)が9月6日、国立阿蘇青少年交流の家であり、北野大氏が、母親から学び著書にもなった「北野家の訓え」を通じ、子育てに対する親の役割などについて基調講演を行いました。

講演終了後、新婚旅行で阿蘇に来て、火口の中に列車が走ってる!とカルデラの大きさに驚いたという北野氏に、阿蘇についてお話を伺いました。

阿蘇の印象は?

とにかく雄大ですよ。世界最大級のカルデラですよ、こんな所は他にないです。外輪山の美しさは高さがほぼ同じだからでしょうか、何度訪れても雄大さを感じます。

阿蘇は今、農業高校の再編問題で揺れています。農業を担う若者へ、専門の立場から一言。

「食」は生きていく上の基本。農業はその「食」、いわば国民の命を支えているわけですから、大きな誇りを

持つて邁進してほしいですね。さらに、ものを作り出すという人間の最もすばらしい部分を生かせる素晴らしい産業だと思います。ただ農業ほど気候なり地形に影響を受けやすい産業はないし、輸入自由化などの影響で現在の厳しい経営状況であるのは確か。しかし農産物だけ輸入自由化しないというわけにはいかないし、農業も国際的な網の中で勝負せざるを得ない。日本が海外と競合していくためには、「ブランド化」、「地域力」だと思う。他と差をつけた特色のある物を作っていく。それが

「高品質」といわれるものになる。他にも構造改善とか、もっと田んぼを生かす方法

とか農業者自身が努力していかなければならぬことはあるが、農業を、いわば国民の命を担う若者には自信を持って頑張ってもらいたい。消費者も、「食」をお願いしているという気持ちを持つことが大事で、「安ければいい」ということじゃいけない。さらに食料安保ということを考えると、少し高くて消費者は国産品を買うべきで、それが日本の農業を育てることにつながります。

地方は都会にくらべ教育環境、塾や習い事)に不利な部分があるという声がありますが。

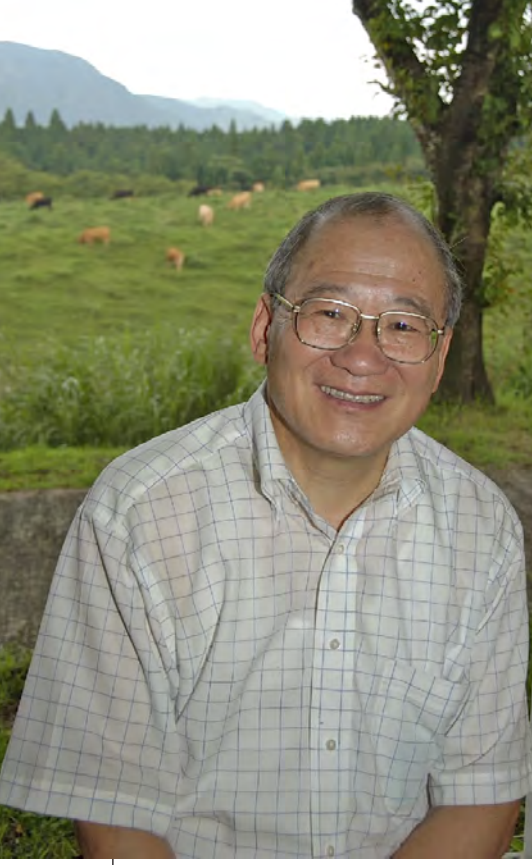
私は塾を主とする考え方には賛成しません。講演でも話したように熊大とか一流の大学に入ることが必ずしも子どもの幸せではないと思うんです。全部が全部熊大目指してサラリーマンになるのがいいっていうわけではない。こういうすばらしい自然の中で子育てできるメリットをぜひ考えてほしい。このような環境の中で育つと、子

どもたちには、「原体験」というすばらしい記憶経験をしたことになりました。自然とふれあいながら、大きな心を持った子どもや素直な子どもに育てていく。そういう方に生かしていけばいいと思うんですね。子どもが進学したくなったら学校でそのための勉強をすればいいと思います。中学までは学校を中心に勉強すべきです。補習が必要なら学校にお願ひしてもいいし。都会と同じように塾へ通うのでなく、このすばらしい自然環境を子育てに生かしていくという前向きな姿勢で子どもを教育していく発想が大事だと思いますよ。

仕事を持つ母親の増加について

私は古い人間ですから母親が家にいて子育てするのが一番だと思っています。しかし仕事で子供と一緒にいてあげられない。このような家族が増えているのであれば地域での子育てが必要で、退職した方や保育経験者の方などが親に代わって生活指導や放課後勉強させるとか面倒みてあげるといいでしょう。子どもは国民の共有の財産ですから地域の協力で進めていくことも大切なことです。

何よりこの雄大な自然が付いていますから幸せに思わなきゃ。皆さん自信を持って子育てしてください。



プロフィール

明治大理工学部教授。工学博士。前化学品検査協会部長。1942年東京都生まれ。タレントのビートたけし氏の実兄。テレビやラジオなどのバラエティ番組にも出演。著書は「北野家の訓え」ほか環境問題に関する著書も多数。